

特集 さあ、農業を始めよう

伊万里市は、三方を山々に囲まれ、伊万里川や松浦川流域には平野が広がるなど、自然豊かな地形を生かした果樹や施設園芸、畜産が盛んで、肉用牛や梨などの産地を形成しています。特に伊万里牛や伊万里梨などは『伊万里ブランド』として高い評価を受けていて、ふるさと納税の返礼品の中でも人気があります。これ以外にも、いちごやきゅうり、ぶどうなどさまざまな品目が生産されています。

このように、農業が盛んな場所ではありますが、農業をしている人に目を向けると、農家数は年々減少していて、20年前と比べて、約3割減少しています。今後いかに就農者を確保・育成し、産地を維持していくかが重要な課題となっています。

昨年3月に実施した市の農業振興に関するアンケート調査の結果では、農業後継者について「後継者はいない」「後継者は未定」が7割以上を占めていて、このままいくと産地を守ることが難しくなるだけだけでなく、私たちの食の将来がどうなっていくのが懸念されます。

今回の特集では、ここ数年で就農した人を取材し、農業を始めたきっかけなどを紹介します。その姿を通して、今一度『私たちの食を支える農業』『職業としての農業』について考えてみませんか。

● 問合先 農業振興課(☎23-2557)

親子で農業を継承

Q. 就農のきっかけ

私の家は、祖父の代から農業を営んでいて、私も幼少期から手伝っていました。祖父や父の姿を見たり、一緒に作業をしたりする中で、自分も同じ道に進むだろうという漠然とした思いがありました。

高校卒業後、日本農業経営大学校に進学し、22歳の時に実家に戻りました。当時、家では『なし・ぶどう・みかん』を栽培していましたが、父から「これから農業をやっていくのであれば、自分が責任を持って取り組めるよう、新しい品目の栽培にチャレンジするべき」と言われ『桃』の栽培を始めました。ちなみに桃に関する知識は全くありませんでしたが、先輩から話を聞いたり、試行錯誤を繰り返したりして、数年前から実が収穫できるようになりました。試行錯誤しながら美味



山口 茂之さん (28歳)
(南波多町)

父からひと言

夢を持つことと、チャレンジ精神が大切です

息子が農業を職業として選んでくれたことはうれしかったです。私は、20歳で就農して35年以上続けてきましたが、数年後には、すべてを息子に任せようと考えています。私も父から農業の知識などを教わってきましたが、時代とともに新しい技術や考え方が出てきているので、そういったものをどんどん取り入れて、夢を持ち、何事にもチャレンジしてもらいたいと思います。



父 山口 和仁さん (56歳)

しい果物を栽培していくことに農業の魅力を感じています。

Q. 親子で一緒にやってよかったこと

家族なので、お互いに頼み事をするときには気持ちがあがります。情報交換もしやすく、果物の出来を分析し合うなど、多くの面で連携がとりやすいです。また、新しく取り組んでみたいことなどは、その都度話し合うようにしています。

Q. 今後の展望など

先人たちが築いてきた果樹の産地を守っていきたくいですし、稼げる農業を確立し、果物の魅力を伝えたり、広めたりしていきたいです。

そのためには、新たな技術や手法を取り入れていく必要があります。

Q. 就農するかを迷っている人に向けて

農業には良い面と悪い面あると思いますが、まずは農作業などを体験してほしいと思います。農業に限らず、何事も軌道に乗せることは大変だと思うので、まずは「やってみよう」という気持ちが必要です。

現在、農業者数は減少しているため、消費者の需要に対して生産者からの供給が追いついていないと感じます。ビジネスチャンスはあると思いますので、たくさんの方に農業に興味を持ってもらいたいです。

脱サラして農業を継承

Q. 就農のきっかけ

以前はスーパーマーケットで働いていましたが、父がきゅうりを栽培していたので、収穫期などで忙しいときには手伝っていました。「私が60歳くらいになったらスーパーを辞めて、本格的に農業をするのでもいいな」と何となく思っていました。

ところが数年前、夫と一緒に農作業を手伝ったときのこと、夫に突如『農業に対する熱意』が芽生えたことで、夫婦で就農することを決めました。父の体力が落ちてきていたことも要因の一つでした。二人とも仕事を辞めることにしましたが、結果的には夫が1年先に就農し、私も追いかけて就農しました。

Q. 農業の面白さ

きゅうりは、苗を植える時期や天気などで成長が違って



青木 真紀子さん (43歳)
(波多津町)

くることがおもしろいと感じています。思ったように育たないときもありますが、それも含めて試行錯誤し、楽しんでいきます。

スーパーで働いていたので、きゅうりの形にはこだわりがあつて、自分が思う『かっこいいきゅうり』に成長したときは、とてもうれしいです。

Q. 農業でどんな作業をしているか

定植時はいろいろな芽をとったり、葉っぱをとったりするなど手入れ作業を中心に行っています。収穫時は、収穫や出荷場までの運搬などの作業も行っています。

をずらしているのですが、1年を通して収穫できるようにしています。

Q. 女性で就農を考えている人へ

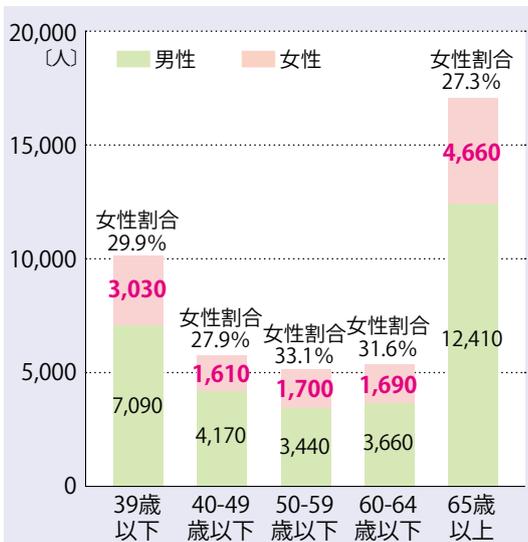
農業を始める女性の割合は、男性に比べて少ないと感じています。

農業は、一日の仕事量を自分で決めることができ、時間の使い方などで融通がきくため、会社に勤めていたときよりも子育てがしやすいと感じています。

農業は汗をかきますし、土などで服や体が汚れるので、気になる人もいるかもしれませんが、そのうち慣れると思います。楽な仕事ではないかもしれませんが、楽しいですよ。

新規就農者に占める女性の割合 (令和5年)

新規就農者のうち、女性が占める割合は、各年代で『3割程度』です。



資料: 農林水産省『令和5年新規就農者調査』

認定新規就農者制度

認定新規就農者になることで、農業技術習得のための支援や無利子の制度資金、補助事業などの公的支援を活用できるようになるなど、次のメリットがあります。

◆ 青年等就農資金の活用

就農に必要な施設整備や運転資金として3,700万円までの無利子資金の融資

◆ ハウス施設整備等への補助金の活用

新規就農者を対象とした国・県・市の補助事業

◆ 経営開始資金の活用

経営が軌道に乗るまでの期間を対象に、年間最大150万円(最長3年間)の資金を交付

◆ 市や関係機関による総合的なフォローアップ

各種セミナーや勉強会の開催などを案内

※詳しい内容や支援を受けるための条件などは、農業振興課に問い合わせください。

伊万里市園芸団地入植希望者を募集しています

● 募集品目 きゅうり

● 応募要件

▷ 農業に対する強い意志と意欲がある就農希望者や農業後継者で、市内に在住し、令和10年産きゅうり栽培を市園芸団地で開始するために研修を希望する人

▷ 研修先のトレーナー農家やきゅうり部会員、周辺農家などと協調して研修に参加できる人

▷ 50歳未満(令和10年時点)

※ 50歳以上の人は事前に相談してください。

● 募集期限 令和7年12月末日まで

● 募集枠 2枠

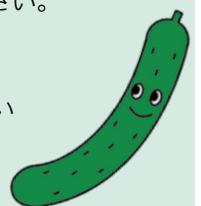
● 応募方法 下記に問い合わせください

● 問合先 農業振興課内

TEL: 0955-23-2557

FAX: 0955-23-2474

mail: nougyousinkou@city.imari.lg.jp



就農までのみちすじ

農業を始めるきっかけは、人それぞれですが、今回の特集で紹介している皆さんは、農業に対し、魅力や可能性を感じ、自らその道を選んでいます。実際に農業を始めるには、設備投資などに要する費用の工面や専門的な技術の習得など、さまざまな準備が必要ですが「農業を始めたい」と思ったら、まずは就農相談や情報収集から始めましょう。

Step 1

相談と情報収集をしましょう



農業を始めたいと思ったら、まずは関係機関へ相談しましょう。そのほかにも、知り合いの農家がいれば、経験談を聞くことは参考になります。

Step 2

体験をしましょう



農業に関する基本的な知識を習得しましょう。農家を見て回ったり、経営主の話を聞いたりするなど多くの人の声を聞くことが大切です。農園での農業体験や新規就農者向けのセミナーなども開催されています。

Step 3

就農計画を作りましょう



自分の経営目標を明確にしましょう。農業といってもさまざまな品目があり、それぞれで経営のやり方が異なります。

Step 4

農業技術を学びましょう



農業を営むためには、確かな技術が必要です。やりたい農業のイメージができたら、先進農家や農業法人での研修、農業大学校などで技術や経営ノウハウを身に付けましょう。

Step 5

就農準備をしましょう

農地や施設、機械の準備はもちろん、新しい土地で始める場合は、住まいの確保などが必要です。

就農相談会

西松浦農業振興センターでは、就農相談会を開催しています。気軽に相談してください。

- 日程 毎月第3火曜日の午後2時から
 - 相談内容 品目・農地・資金・経営計画など
 - 申込方法 電話
- ※予約制です。事前に必ず申し込んでください。

● 申込先

伊万里農林事務所 西松浦農業振興センター
(☎ 23-5128)



↑園地で行われた果樹セミナーの様子

制度の認定を受けるためには、更に計画を練る必要があります

就農計画7つのポイント

- ① どの品目（家畜）で始めるのか
- ② どこで就農するのか
- ③ 栽培方法は（露地・ハウスなど）
- ④ 経営タイプは（単一作物・複数作物複合経営）
- ⑤ 規模は
- ⑥ 販売・所得目標は
- ⑦ これらを達成するために必要な技術・施設・資金は

— 就農に関することなど、まずは気軽に相談してください

- ◆ 市農業振興課農政企画係 (☎ 23-2557)
- ◆ 伊万里農林事務所 西松浦農業振興センター (☎ 23-5128)
- ◆ 伊万里市農業協同組合 (☎ 23-5560)